

平和と原爆を知る旅

多摩市立聖ヶ丘小学校 5年 おおつか 好倅

1年生の頃、8月6日の朝、母とピクニックへ市内の公園へ行きました。その時に原爆の放送が流れてきました。一体なんの放送なのだろうと疑問に感じました。そこから、興味が湧いてきて、図書館で本を借りて調べたり、父や母に聞いたりして、考えるようになりました。そこで、今回の派遣事業の事を知り、広島のことをもっと知る機会になると思い絶対に参加したいと思いました。

派遣先の広島では被爆者の方々と出会いました。そこで、被爆時のお話を聞き、広島市内で被爆した樹木や建物を巡るフィールドワークを行いました。実際に被爆樹木に触れたり、見たりして、放射線の影響で樹皮がどんどん剥けているのに驚きました。広島は、原爆が落とされたせいで、たくさんの尊い命が失われ、その時の痕跡が至るところに残されていました。このようなことが二度と起こらないようにするためには、どのようなことをすれば良いのかと私は考えるようになりました。

その後、広島平和記念資料館に行きました。ここでは、原爆の映像を見ることができる設備があります。原爆が落とされて数秒後、街が一瞬で死の街になったのが恐ろしかったです。巨大なキノコの様な雲がなくなった後に現れたのは、建物や、木が倒れたり、焼けたりして、見る影もなくなった広島の街でした。原爆の威力はとっても残酷だと思いました。

フィールドワークで原爆ドームを見に行きました。壁はほとんど欠けていて、ドームの鉄骨がむき出しになっていました。ここでも、原爆の無惨さが心に染みしました。被爆者の方によると、「晴れている日に原爆を落とせ」、と戦闘機B29は命令されたそうです。理由はどれほどの威力があるのかをカメラで撮ったり、メモを取ったりするためだったそうです。原爆が爆発した後では、人が幽霊のように手を前に突き出して歩いていて、街中に真っ黒な死体が累々と転がり、耐えきれない臭いを放っていたそうです。この話をしていた被爆者の方は約70年経っても震えながら涙声で話していました。私はこの機会を通して、戦争の行き着く先が、原爆だったのだと学びました。亡くなった人々にも夢はあったはずです。たった1つの戦争と原爆で約14万人以上もの夢が打ち砕かれました。その人たちは、きっと無念だったことでしょう。私は原爆というのは地獄の塊なのだと思います。

現在の広島は賑やかで、ビルが立ち並ぶ立派な大都市ですが、79年前には、瓦礫と死体だけの恐ろしい街とは全く思えませんでした。原爆が落とされたときに失われた命は戻ってきません。だから原爆は二度と落とさないでほしいと願っています。

原爆に使われている核もエネルギーです。このエネルギーをもっと良い事に使えないのでしょうか。発電などに使えば核兵器に使われないようになるのではないかと思います。派遣員8人で頑張っってより平和で明るい未来を作っていきたいです。平和紙芝居「KPKA(クプカ)」の人たちはこう言いました。「微力だけど無力じゃない。」